

来年のカメムシ類の被害を抑えるため 秋耕を行いましょう

令和8年9月
栃木県農政部経営技術課

収穫後の水田を耕す秋耕（しゅうこう）は、カメムシ類等の各種病害虫の発生源となる再生稻（ひこばえ）を除去し、翌年の被害を軽減するための重要な作業です。

県内全域の再生稻でイネカメムシが確認されています。10月中旬頃に越冬地に移動するまで、餌となる再生稻を出穂させないように、収穫後は速やかに秋耕を行いましょう。



● イネカメムシの行動と影響 ●

- ・イネカメムシは越冬前に、再生稻の穂に集まり栄養を補給する
- ・出穂した再生稻があると、越冬できる個体数が増加し、翌年の発生量が増えるおそれがある

秋耕の効果

- ・餌場となる再生稻の発生を防止
- ・翌年の斑点米発生リスクを低減
- ・縞葉枯病等の対策としても有効

実施のポイント

- ・収穫後できるだけ早く耕起を行う
- ・深さ15cm以上を目標にゆっくり起こす



秋耕は、簡単にできるカメムシ対策の第一歩です。地域ぐるみで取り組み、斑点米の発生を防ぎましょう！